

パターンⅡ【平均法・両者負担】

B工場は製品Yを生産・販売し、実際総合原価計算を採用している。次の【資料】にもとづいて、答案用紙の総合原価計算表の（ ）内に適切な金額を記入しなさい。なお、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法として平均法を用いること。

【資料】

1. 生産データ

月初仕掛品量	2,000 kg (60%)
当月投入量	<u>4,000 kg</u>
合計	6,000 kg
差引：正常減損量	400 kg
月末仕掛品量	<u>1,500 kg (60%)</u>
完成品量	<u><u>4,100 kg</u></u>

2. 原価データ

月初仕掛品原価	
原料費	2,800,000 円
加工費	<u>2,160,000</u>
小計	<u>4,960,000 円</u>
当月製造費用	
原料費	6,048,000 円
加工費	<u>9,500,000</u>
小計	<u>15,548,000 円</u>
合計	<u><u>20,508,000 円</u></u>

- (注)
- ・（ ）内は加工費の進捗度である。
 - ・原料費は工程の始点で投入している。
 - ・正常減損は工程の途中で発生しているため、正常減損費は完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。

総合原価計算表

(単位：円)

	原 料 費	加 工 費	合 計
月初仕掛品原価	2,800,000	2,160,000	4,960,000
当月製造費用	6,048,000	9,500,000	15,548,000
合 計	8,848,000	11,660,000	20,508,000
差引：月末仕掛品原価	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()

参考メモ【仕掛品ボックス】

仕掛品－原料費

月初有高	
	当月完成
当月投入	
	減 損 費
	月末有高

仕掛品－加工費

月初有高	
	当月完成
当月投入	
	減 損 費
	月末有高